

特集

「小5 合判模試」 1

中学入試レポート vol.

コロナ禍で再確認した、 「未来志向の私学教育」

～「学びを止めない」ことが、学校の原点～

全国一斉に休校措置が取られた3月以降、学校生活が中断され、緊急事態宣言の発出、外出自粛の日常で、当たり前が当たり前でなくなる経験が続きました。何年ぶりとか、戦後初とかではなく、誰もが「初めて」の、手探りで答えを探す状況のなかで、中学受験を考えていた皆さまは、どのような思いを抱えていたのでしょうか。

多くの戸惑いや不安の声が上がりました、「情報を収集して学校説明会や公開行事に参加し、学校選びを進めようと計画を立てていたのに・・・」。一方、いつもなら見えなかったことや、これからの新しい世界を生きるために大切なことを考えることができました。今号では、「今、学校はどうなっているのだろう」、そこから始めて、これからの時代の学校選びを考えていこうと思います。



4月のある晴れた日、
● 清泉女学院
応援メッセに書かれた
メッセージ

首都圏模試センター

コロナ禍前後で学校選びは変わるのか!?

全国一斉の休校となった3月から4月、そして5月にかけて、恒例の合同相談会などのイベントは軒並み中止。説明会の年間スケジュールも白紙の状態が続き、情報収集もできない事態に。さあ、これから学校へ行こうというタイミングでの自粛生活に戸惑ったのは、2021年入試に向かう小学6年生のみならず、小学5年生の皆さんも同じだったと思います。「来年も、桜は咲く」、そう思っても、今の学年の終わりも新しい学年の始まりも、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の波に飲まれた、悔しい2020年の春でした。

この波こそ「誰もが経験したことのないグローバルな課題」。図らずもこの情勢は、学ぶ権利を守る行動、グローバルな視点、前例にとらわれない柔軟な対応、ICT教育環境、生徒の自律など、私学の教育をクローズアップしました。

2月下旬の政府の要請を請け3月2日から学校休校。首都圏の学校再開は結局、6月となりました。首都圏模試センターが4月、首都圏の私学を中心に行ったアンケートからは4月には多くの学校が、教材は配送、オンラインでの授業態勢を準備、移行していったことがわかりました。

コロナ禍の「完全終息」までの道のりは長く続くでしょう。しかし、中学校・高等学校で学ぶことが、10年後、20年後の世界を生きる力になる。そういう意味で学校選びの視点は、これまで以上に未来志向の教育に向けられると言えます。アフターコロナは、「以前の生活に戻る」ということではなく、「新しい世界」のスタートであり、その世界を担うのは、他でもない、皆様のお子さまたちなのです。

「学びを止めなかった」私学、そして生徒

4月以降多くの私学ではこの間、オンライン授業(授業動画配信やリモート授業など)、課題配布・提出などの学校生活をオンライン上で再開。朝礼、面談、部活動、時間割を組んだ学校生活の再現まで、機敏な動きを見せました。オンラインを活用した「生徒の健康・安全」と「学習機会」の確保です。学校によりタイミングは異なりますが、教育現場の先生方の「子どもたちの学びを止めない」という思いが前例のない事態を乗り越える原動力となりました。

4月のオンライン授業開始に注がれたエネルギーは、例えば4月13日にリモート授業をスタートした●聖学院が、この日までの一週間で約100本のオリジナル授業動画を作成、●田園調布学園の授業動画数は4月末には約300本にのぼるという数からも伺えます。もちろん数だけではありません。課題を与えるだけでなく双方向にやりとりしたり生徒同士の議論の空間をオンライン上に作ったり、時間割に沿った生活リズム、生徒面談の開始、生徒自身が声をあげて始まった委員会活動や部活動の“出現”など、事例は枚挙にいとまがありません。また5月に、オンライン会議システムを使い、自校だけでなく他校の先生方ともオンライン授業の事例と課題を共有しようとしたのは●品川女子学院です。つまりいち早くオンラインを活用できたのは、私学(とその生徒) だったのです。

オンライン授業が成立する前提となる一人一台のデバイスの有無、家庭内のwi-fi環境など、入り口の段階がクリアできていたか、気になるところです。私学にお通いのご家庭では、比較的、こうした環境が整っていたようです。また●サレジオ学院のように学校のノートPCを生徒に貸し出したという例もありますし、●鷗友学園や●昭和女子大学昭和などが導入していた、自分のタブレットやスマホ、ノートPCを学校に持ち込む「BYOD (Bring Your Own Device)」も改めて評価されました。●東京家政大学附属や●桐朋女子では家庭のICT環境整備のための支援金が給付されました。

緊急事態宣言の解除後も、◎三田国際、◎武蔵野大学のように、登校再開を先送りし、オンライン授業を継続した学校もあります。オンライン授業の活用は今後、対面授業とのハイブリッドな活用へと広がっていくことは間違いのないでしょう。



●聖学院では、4月11日、100本のオリジナル動画が完成したことをHPで告知



2021年度用学校案内表紙に書かれたメッセージ その①
世界を心に入れた人を育てる。



特集 コロナ禍で再確認した、「未来志向の私学教育」

～「学びを止めない」ことが、学校の原点～

「アフターコロナの学び」とは

世界を巻き込むコロナ禍は様々なことを考えさせてくれました。そこに唯一無二の「正解」はありません。この時期、現在小学校5年生のお子様が中学校へ進学する2022年4月の社会情勢を予測することも、とても難しいことだと思います。ただこれからの世界を生きる子どもたちに必要な力をつける教育環境を考えることは、今、できます。

「教育」も揺さぶられ、多くの課題が顕在化しました。目の前の、現高校3年生の大学入試はどうなるのかさえ、本稿を書いている段階（6月初頭）では霧が晴れていません。あの大学入試改革は、予測不能な未来に生きるための力の育成を高校、大学の教育、その接続に求める「高大接続改革」でした。知識・技能だけではなく、主体性・多様性・協働性のある学習者、思考力、判断力、表現力、創造力を育む教育への転換だったことを思い出してみましょう。世界の変化は、日本の教育改革を待ってはくれません。それだからこそ、私学で行われている未来志向の教育を知って、中学受験という選択を検討していただければと思います。

6年間の「学び」の内容で学校を選ぶ

「小学生の進路」選択のひとつが、定められた学区か選択肢の中から選んだ公立中学校に「中学受験（受検）をしない」で進学するというもの。もうひとつは、お子さまが中高時代を過ごす学校を選んで「中学受験（受検）をして」進学するという選択。その時、何を、どう考えたら良いでしょうか。中学受験を選択した場合、誰もが抱える悩みです。

入学試験を行なう中学校は、首都圏では国立13校、公立（都道府県立・市立）30校、私立301校です。12歳の選択とは、いわばわが子が将来、世界で生きる力を身につける教育環境を探し選ぶということです。学校の教育理念を、どのように教育内容に落とし込んで実践しているかを、しっかり見極めることが大切になってきます。そのためにも、まず成り立ちからみていきましょう。

研究機関の役割を担う国立大学附属

国立中学校は、国立大学附属で、教育の研究や実習を目的として設立された学校で、研究機関としての役割を担っており、教育レベルの高さには定評があります。また公立中学校と同じく「義務教育校」として扱われるため、中学3年間の学費（入学金や授業料）は無償です。●筑波大学附属駒場や○東京学芸大学附属国際中等教育学校などには、中高6年一貫の体制がありますが、高校進学に当たって、高校受験の準備が必要となる学校もあります。○千葉大学教育学部附属と○埼玉大学教育学部附属は、併設高校を持っていません。また○お茶の水女子大学附属の高校は女子校。○東京学芸大学附属（小金井・世田谷・竹早）は、○東京学芸大学附属高等学校への推薦枠（2021年より200名程度）があり、中学の調査書と1月の学力検査で、附属高校への進学可否が決まります。

中高一貫化の進む公立の動き

現在、首都圏では、高校受験で途切れない6年一貫教育の成果が浸透し、公立の中高一貫化が急速に進行しています。

東京都立の併設型中高一貫校は、2021年から○富士、○武蔵が、2022年から○両国、○大泉が高校募集を停止し中学募集の規模を拡大していきます。なお○白鷗の実施時期については2021年度以降に決定の予定です。

茨城県は、既存の高等学校を、中学校を併設する「併設型」と、高校募集のない完全中高一貫教育校である「中等教育学校」に改編する中高一貫校化で県立高校改革を進めています。2020年には○太田第一、○鹿島、○下館第一、○鉾田第一、○竜ヶ崎第一に中学を開校しました。2021年には○水戸第一、○土浦第一、○勝田、そして2022年に○水海道第一、○下妻第一にそれぞれ中高一貫教育校を設置することになっています。なお勝田はひたちなか地区中等教育学校（仮称）となり、その他9校は高校入学者枠が残る併設型（併設の中学からは受験せず併設の高校に進学することができる）です。

また○千葉市立稲毛中学校・高等学校は、2022年から段階的に高校募集を停止し中等教育学校へ改編されます。

埼玉県では、既存の公立一貫校に加え、○さいたま市立大宮国際中等教育学校が2019年に開



校し人気となりました。そして2021年には◎川口市立川口高等学校附属中学校が開校します。各地、中学開校前の説明会は満席となるほどの注目の高さを見せています。

公立には、市町村立の中学校と都道府県立の高校が連携する「連携型」もありますが、首都圏以外の地域に多く、中学入学時の選抜試験はありません。

学校の数だけ個性がある私学

首都圏には344校の国公立・私立中高一貫校があります。その中から、お子様にとって最良の私学と出会うために、「学びの内容」が大切なことは繰り返すまでもありませんが、その背景を知っておきましょう。

【男子校、女子校、共学校】

首都圏で中学受験をする際に、男子は、男子校45校、共学校207校から選ぶことになります。女子は女子校92校、共学校から選べるので、男子より選択肢の数が多いといえます。男女別学校が共学化したり、共学で開校したりで、共学校が増えています。2019年には桐蔭学園が●男子部・●女子部・●中等教育学校の募集を、◎中等教育学校に一本化（共学化）。2020年に共学化したのは、◎聖ヨゼフ学園、◎品川翔英（小野学園から校名変更）、2021年に共学となるのは◎光栄VERITAS（現在は●聖徳大学附属女子）、●芝浦工業大学附属（現在は中学は男子校、高校は共学）です。なお、男子、女子が同敷地内もしくは隣接する学校は別学校と言われることがあります（●●国学院久我山、●●桐光学園など）。

世界経済フォーラム（WEF）による「世界ジェンダー・ギャップ報告書2020」で日本は、対象153カ国中121位でした。今のこの国において、男子校、女子校で、ジェンダー（男女の役割分担）や成長曲線の違いを意識せずに自己表現できることは、大きな魅力です。また進路を考えると、性別で文系向き・理系向きと振り分けたり、活動に男/女らしさを求めたりするような決めつけもなく、各々の個性、志望に沿って考えやすい環境があります。「男/女だからこうすべき」というステレオタイプから解放されていれば、性別による生きづらさからも自由でいられる可能性が高いでしょう。●日本大学豊山女子の「私は女子にしば

られない」は、この思いを高らかに宣言したキャッチフレーズです。

しかしこれは、男子校・女子校

vs.共学校という別学論争を求めるものではありません。「どちらが優れているのか」ではなく、「わが子にとってより良い環境はどこか」が大切なことです。「わが子は男/女だから・・・」ではなく、「この子が自分らしく・・・」を一番に考えたいものです。



授業や部活、学校生活、生徒・先生・卒業生の声、そしてブラミワタまで、●三輪田学園の学校案内には学園の今を凝縮

【創立の母体・教育理念】

私学を創立までさかのぼると、宗派や教団が設立した教育機関にたどり着くことがあります。例えば、キリスト教系、仏教系のように。浄土宗増上寺の徒弟教育機関を祖とする●芝が人間教育の根幹に据えているのは「共生(ともいき)」。●清泉女学院はスペイン系修道会が母体のカトリック校で、愛を中心に世界の人々と共に生き社会貢献することを大切にしています。「この地に中等教育の場を」という地域の熱意に応え地元有志の協力により設立された●足立学園のような学校、創立者（個人やグループ）や企業などが、社会に有為な人材を育てたいと創立した学校もあります。

設立の際の「思い」=教育理念は各校にとって、いわば背骨のようなものです。歴史の長短によらず、理念は、校風を形作り、教育内容や学校行事などに反映されます。

【大学付属校・進学校】

「大学の定員厳格化」による大学入試の難化の影響もあり、中学・高校入試でも大学付属校人気が見られました。この数年は、私立中高の大学系属化も進行。大学付属校には、併設大学へ進学する大学付属校、付属校と進学校の両面を併せ持つ半付属校、併設大学はあるもののほとんどの生徒が他大学へ進学する進学校があります。「大学付属校」は、中高大一貫教育に身を置くこととなります（小学校からの場合も）。大学の持



特集 コロナ禍で再確認した、「未来志向の私学教育」

～「学びを止めない」ことが、学校の原点～

ソフト、ハード両面の支援（講義、部活動の指導、図書館利用など）を受けることができます。大学受験がないため、のびのびとした学校生活を送れるとされますが、内部進学で希望する学部・学科に進学するには、学業成績や学校生活で一定の条件を満たすことが必要です。英語のスコアや級を指定したり、高校での卒論を条件にしたりしている学校もあります。また、他大学を目指すような場合は、個別の大学受験対策が必要です。慶應義塾大学、早稲田大学、明治大学、青山学院大学、立教大学、法政大学、中央大学の付属高の多くは、80%以上が併設大学へ進学します。早稲田大学の付属・係属校では●早稲田の併設大学内部進学率は50%前後を推移しています。●学習院も50%未満、●学習院女子の内部進学率は60%弱、◎成蹊約20～30%など、これらは進学校的付属校と言えるでしょう。

多くの付属校では、他大受験をする場合、併設大学への推薦権を辞退することを求められます。近年、併設大学への内部推薦権を保持したまま他大学進学にも道を開く学校も増えてきました。明治大学は、国公立大学・大学校に限り可としています。付属校内部進学率が約50%の◎成城学園は、条件を設けず高校2年次から内部進学、他大文系、他大理系という進路に応じたコース制で、幅広い進路に対応しています。

進学校は、自分で行きたい大学や学びたい学部・学科を選んで進路を決定することになります。従って中高6年の間に得た知識や経験から生まれた目標実現のためのカリキュラムやキャリア教育、進路指導が充実しています。

大学附属でも進学校でも、私学には実践的な外国語教育、フィールドワーク、探究型プログラム、国内外での研修、卒業生の講演など、受験のためだけではない授業、生徒一人ひとりが進路を見つけるきっかけや多彩な出会いが、たくさん用意されています。

【独自のコース、システム】

学びと進路を明確にしたコース制も増えていきます。例えば●昭和女子大学昭和の3コースは、医学・理系進学を目指すスーパーサイエンス、海外大学や英語を使う仕事を目指すグローバル留学、幅広く総合力の獲得を目指す本科と言うように目指す進路を謳ってはいますが、スーパーサイエンスコースは、プログラミングや国内医系大学や海

外大学との連携、自然研修など、コース毎に工夫された教育プログラムの充実を図っています。◎工学院大学附属は、ハイブリッドインターナショナルクラス、ハイブリッド特進理数クラス、ハイブリッド特進クラスという編成です。同校はSociety 5.0を意識しています。Society 5.0とは、最新のテクノロジーを活用して、経済発展と社会的課題の解決を両立した、新しい未来社会として提唱されています。この未来の扉を開く鍵は新しい価値の創造であるとして、FabスペースでのSTEAM、世界貢献のため経営課題の解決に挑む実践型の教育プロジェクトMoGなどに取り組んでいます。



◎工学院大学附属の図書館内にあるFabスペースは学びのサイクリックを生み出す場。情報や知識をテクノロジーを用いてもつくりを行う

ダブルディプロマ (DD)、国際バカロレア (IB) のように、学校の体制自体を大きく変革する動きも見逃せません。DDは、2ヶ国の卒業資格を得ることができる仕組みです。◎文化学園大学杉並はカナダ・プリティッシュコロンビア州政府が認めた日本初の海外校です。

Bunka Sugunami Canadian International School (BSCIS)では、卒業時にカナダはじめ複数の国の大学に出願可能な卒業資格が授けられます。2020年からDDプログラムを導入したのは、●神田女学園、●国本女子、●麹町学園女子です。●神田女学園は、アイルランドの高校と現地型のDDプログラムを導入。●国本女子は、カナダ・アルバータ州教育省と提携して、中高6年グローバル一貫教育校Kunimoto Alberta International Schoolを設けました。●麹町学園女子はアイルランドとニュージーランドの学校と提携してのDDプログラムです。

IBでは、探究する人、考える人、コミュニケーションできる人など10の項目を学習者像としています。◎昌平、◎玉川学園、◎茗溪学園、◎開智日本橋学園など認定校は、IBの手法を用い、教



育の成果をあげています。公立では◎札幌市立札幌開成中等が認定校です。2019年に開校した◎さいたま市立大宮国際中等、◎大阪市立水都国際、◎広島県立広島叡智学園も、未認定ながらIB教育を取り入れることで注目されました。2020年に共学化した◎聖ヨゼフ学園は、併設の小学校でIBの初等教育プログラムを導入しており、今後、中高にMYPを導入すべく、2022年度の正式認定へ向けて着々と準備進行中です。

「学びの先にある何か」を見つける

全ての学校に、教育目標達成のための、「カリキュラムポリシー」と言われる、教育課程、教育内容・方法を定める基本方針があります。それに基づく、特徴的な授業の事例を見ていきましょう。

◎工学院大学附属、◎関東学院六浦、●横浜女学院などは、英語教育にCLIL（クリル）を導入しています。「内容言語統合型学習」と呼ばれるもので、教科や何らかのテーマ学習と外国語を組み合わせた指導方法ですが、実際に起こっている社会問題を導き上げ、英語「で」内容を理解し、考え、ディスカッションする力を育むことを目指しています。横浜女学院でCLILとともに取り組んでいるのが「持続可能な開発のための教育」ESDです。国際社会を意識し、現在、世界が抱える諸問題を知り、その解決のために行動する人を育てる教育のことですが、◎湘南学園は、独自の「湘南学園 ESD」を策定し、生徒の自発的なプロジェクト活動やフィールドワークなどに取り組んでいます。これらのプログラムは、PBL型学習（Project Based Learning/問題解決型学習）で行われることが多く、生徒は自発的・能動的に自ら問題を発見し解決する能力を磨きます。●和洋九段女子では6年前からPBL型授業を導入しています。学校として取り組んでいるSDGs



●和洋九段女子の中3生(当時)の「SDGsすごろく」は「SDGs探究AWARDS 2019 中高生部門」で優秀賞を受賞

を、社会のもっと多くの人に知ってもらいたいと中3生が作った「SDGsすごろく」は、PBL型授業一つの成果です。

行事や部活動も学校生活の柱ですが、今年は新型コロナの影響を受けています。文化祭が中止となった●武蔵では実行委員による活動報告が準備され、●聖光学院では日程延期や一般公開の制限など、この状況の中で精一杯の取り組みを生徒自らが進めています。

こうした経験にトライ&エラーは付き物です。◎聖徳学園は、ICTをツールに、STEAMとグローバルを両輪にした教科にとらわれない学びを実践していますが、学園のSTEAM教育を、「彼ら（生徒）が実社会で経験するであろうトライ&エラーを実践するためにある」と言い切る程です。

失敗も成功も中高6年の間に、自分の能力に気づいたり、進路を見つけるきっかけにもなります。また夢に邁進する力になることもあるでしょう。

中学入試にはどんな入試があるか

「入試問題は学校からのメッセージ」という言葉の通り、私学の多彩な入試は受験生のどのような力を求めているか（あるいは入試を通して発見したいか）という、各校のアドミッションポリシーが入試問題に現れます。●山脇学園「探究サイエンス入試」、●共立第二「サイエンス入試」、●聖学院「ものづくり思考力入試」、◎駒込「STEM入試」、◎東洋大学京北「哲学教育 思考・表現力入試」など、学校の教育内容を掘り下げていくと、自ずと入試に至ることがよくわかります。こうした、科目の枠を超えて、「思考力」や「表現力」を問う、「思考力型」「記述・論述型」「総合（合科）型」「自己アピール・プレゼンテーション型」「英語型」「プログラミング」など、いわゆる新タイプ入試といわれる入試を実施している学校は、2020年入試では5年前の約3倍に当たる148校にのびりました。選抜する入試というよりも、偏差値や点数で測れない子どもたちの可能性を見出す入試といえるでしょう。

もちろん、全体では4科、2科、1科、科目の組み合わせで選択など、国語、算数、理科、社会という科目型がもっとも多い入試です。ここでも、知識（の量）を問うだけではなく、それらの知識を結びつけて考えたり、グラフや表を読み取ったりしたことを記述、またその理由を述べる問題、





特集 コロナ禍で再確認した、「未来志向の私学教育」

～「学びを止めない」ことが、学校の原点～

column

私学のお金

—特待生・奨学生—

中学入試には特待生を選抜する入試も多数あります。内容は1年間（あるいは複数年）の学費免除や入学金免除など様々です。2021年入試では、◎桐蔭学園が2月2日午後を特別奨学生選抜入試とします。また入学後の家計急変などに対応する奨学金制度や成績優秀者への特待生制度など、学校独自の制度を設けている学校も少なくありません。

私立高等学校の生徒のための、国による就学支援金制度や、都道府県の学費支援制度（例えば東京では授業料軽減助成金制度）のような、経済的負担を軽減するための公的な支援も充実してきました。



自分の考えを理由とともに述べる問題、答えがない問題など、思考力に踏み込んだ出題が増える傾向は続いています。

4科目入試が多かった国立でも、変化が見られます。2020年入試で◎千葉大学教育学部附属がそれまでの4科から、「プレゼンテーション(自己アピール申請書にもとづいた自己アピール)、作文、総合問題(教科の学習をベースとした記述式の問題)、集団討論」に変更。2021年の入試科目変更を公表しているのが◎お茶の水女子大学附属です。こちらは従来の4科入試から、「入学検定：検査Ⅰ、検査Ⅱ、検査Ⅲ」の導入へと動きます。現在8教科（全教科）入試の◎筑波大学附属も2021年入試から音楽、図工、家庭、体育は報告書を点数化し4科目入試（国算社理）に変更するのも、国立中学校も科目見直しの流れにあることをうかがわせます。また、国立中学校は学校ごとに「通学区域」を指定しているので、注意してください。公立で実施されるのは「適性検査」で、科目の枠を超えた総合的な問題が出題され、記述を中心とした「表現力」「思考力」を測る問題の出題が多い傾向があります。

なお私立が「受験」とするのに対し、国立・公立は「受検」と表記するのが通例です。

2021年以降の入試

新型コロナウイルス感染の収束状況次第で、これまで通りの入試が行えるかどうかは不透明です。オンラインを活用した新しい入試の誕生もありえます。単年の動きに止まらず、現在小学5年生のお子さまが受験する2022年入試以降にも

関わる大きな変化が生まれるかもしれません。しかし、まずは落ち着いて今の状況を確認しておきましょう。

◆2021年入試(現6年生受験年)の変更点

共学化し女子の募集を始める●芝浦工大では、2月1日・2日の3科入試のうち国語・算数で聴解問題を導入、2日午後言語技術と算数による特色入試を設けます（英語・算数あり）。5月にサンプル問題も公表されました。◎品川翔英（2020年に小野学園女子が共学化し校名変更）は、ラーナーズタイム入試、英語インタビュー入試、自己PRプレゼン入試など、また◎東京立正は自由研究SDGs入試（仮称）を予定しているといい、それぞれの詳細発表が待たれます。

●獨協は2科で2月1日午後入試を新設。●清泉女学院は、2月2日午後算数1科のSP入試を新たに実施します。同校は、一期の面接や提出書類の見直しも発表しています。◎目白研心も算数1科目入試を2月3日に新設。◎啓明学園は算数特待入試を行なっている2月1日午後英語1科目入試（面接なし。英検準2級レベル）を追加します。また◎桜美林は、2月3日午後を、2科目入試から算数1科目入試に変更することを発表しました。従来2月2・3・5日に4科目で入試を行ってきた◎神奈川大学附属は、2月1日に2科目の午後入試で参入。その他の日程も2日、4日へ変更、帰国生入試を12月に行うなど、大きく変更します。◎東京電機大学は2月2日午後を2科から算数、国語いずれか1科目選択となります。

2021年度からの新コース編成導入を公表しているのは、●世田谷学園、◎開智です。世田谷学

ほみぢ
コラム

2021年度用学校案内表紙に書かれたメッセージ その◎
!驚き、気づき、発見をあなたへ

園は2021年度から「本科」と「理数」の2コース制を導入。開智は先端の4コース編成（先端IT・先端MD・先端GB・先端FD）となります。なお開智は算数1科の午後入試も導入する予定です（詳細未定）。また新設ではありませんが、●昭和女子大昭和は中学2年生から編成していたスーパーサイエンスコースを1年次から募集スタートとします。

2021年には共学校に2校、加わります。●聖徳大学附属女子が共学化し、「◎光英 VERITAS（コウエイ ヴェリタス）中学校・高等学校」に校名変更。中学募集を停止していた村田女子が、2021年4月、「◎広尾学園小石川」に校名を変更し中学開校、共学校となります。この他、●本郷の高校募集停止、●吉祥女子の入試回数3回から2回への変更、◎青山学院の2日への戻り、◎

東邦大東邦の推薦入試定員増など受験生の動向に影響を与える変更が公表されています。

◆2022年入試（現5年生受験年）の動き

これまでに発表されている、現5年生の皆さんが受験する2022年の変更点としては、●豊島岡女子学園の高校募集停止、◎江戸川学園取手が受験生全員、英語必須（英語を含む5教科入試）とすることが明らかになっています。

2021年以降の国公立の動きは、4～5ページをご参照ください。

5月以降、オンラインを活用した募集活動・広報活動が一気に広がっています。「全ての人が特等席」に座って学校と直接繋がれるチャンスです。秋以降も、学校を知る機会として積極的にご活用ください。

夏が来た！ 5年生の、今年の夏休みの過ごし方

夏休み。これまでであれば、7月下旬から8月いっぱい約40日続く日々でした。今年は、長く続いた休校期間の影響で、始まりも長さもいつもとは異なります。自治体でも対応が異なります。とはいえ、夏までの勉強を振り返り、基礎を固めるという基本的な夏休み中の過ごし方は同じで、夏の過ごし方＝努力が、この後に実を結ぶことに変わりはありません。夏期講習が始まるまでに、得意なところ、苦手なところをつかんでおくことをお勧めします。

夏休みが短くなれば、勉強だけではストレスもたまるでしょう。小学校と夏期講習が並行する時期もあるでしょう。学校の宿題も、塾の課題も両方が中途半端になってしまうおそれがあります。例年以上に、「生活のリズム」を作ることを大切にしてください。そして、オン（勉強）とオフ（遊び）のメリハリをつけられるように工夫したいものです。遅れを取り戻そうと無理な計画を立てることは禁物です。そして焦って「あれも、これも…」と手を出してしまうのは逆効果。2月から7月に塾で学んだ分野の「知識」や「技法」を確認し、しっかり身につけるのが夏休みです。模試のふりかえりを利用して、塾のカリキュラムをおさらいした上で演習に取り組むようにすると良いでしょう。

時には、「思考コード」をイメージして、お子さまの好きなことや興味のあること（もの・人など）をテーマに、“ゲーム感覚”で会話を楽しんでみてはいかがでしょうか。リフレッシュ効果と新たな発見があるかもしれません。「知っていること」「他に知っていること」「それぞれがつながりあっていること」と膨らませていくと、お子さまの好奇心が刺激されて、「なぜ」「自分なら」と思考の方が勝手に動き始めたら幸い。その時、反応できなくても、忘れた頃に芽が出ることもあるものです。“実現可能な計画”を立てて、毎日少しずつ達成感を感じられるような学習リズムで過ごすようにしてください。

「決めたことは、最後までやらなければ」と、つつい声をあけてしまいそうになる時は、声に出す前に深呼吸。計画を見直して、できる内容に変えていくことも大切です。小さな成功体験の積み重ね、急がば回れ、です。

塾の夏期講習で力を伸ばすには？

塾の夏期講習は多くの場合、さまざまな演習問題に取り組むことを通じて、これまで学んできたことを「使える力」として定着させることを目標にしています。そうなると子どもたちは、自分の解答が「○か、×か？」という結果に気をとられがちです。しかし、そこで大切なことは、そうした問題への取り組みを通して、自分が「どのように考えたのか」、「なぜ、そういう考え方（解き方）を選んだのか」を確認することです。それが基礎・基本を「使える力」にするためのもっとも確実な学習方法です。

また夏期講習では、その日の授業の単元を確認したうえで授業に臨むようにしてください。できれば前日までに、夏までのテキストやノートを見直して、自分が学んだことを思い起こすことができれば準備は万全です。それは、これまでの自分の学び（土台）の上に、新たな課題に取り組む、「気持ち」の態勢を整えることにもつながります。

大人にとっても子どもにとっても、初めて経験する with コロナの夏です。健康に注意を払うことはもちろん、中学受験を取り巻く不確かな情報に左右されず、「焦らず」「欲張らず」に、一日一日を大切に過ごしましょう。

小5の夏休みは
 基礎力を固める絶好の機会！
 無理のない学習計画を立てて
 規則正しい生活を
 心がけよう！

